

国旗と国歌

現代的象徴とその歴史的起源

日本の国旗は日の丸であり、国歌は「君が代」です

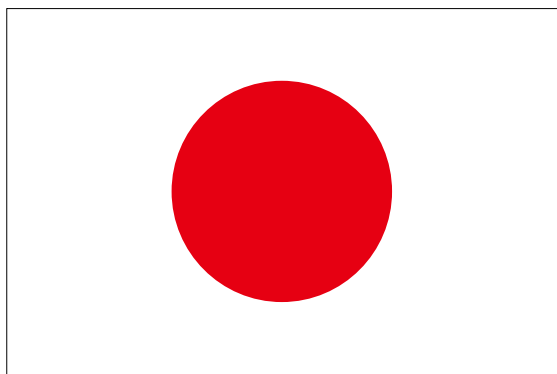
国旗

赤い丸は太陽を象徴しています

日本の国旗は日の丸（日章旗）と呼ばれます。この名前の起源は日本語の日の丸、すなわち、「太陽の丸」にあります。この日の丸のシンボルが最初に旗に用いられたのはいつなのか、明らかではありません。しかし、12世紀に武士が現れ源平の合戦が行われたとき、武士は軍扇と呼ばれる扇子に太陽の丸を描くのを好みました。15世紀から16世紀にかけて多くの武将たちが覇を争った戦国時代には、日の丸は広く記章として用いられました。1600年の関が原の戦いを描いた屏風絵には、旗全部に日の丸が描かれた軍勢が見られます。白地に赤い丸というのが最も一般的ですが、紺地に金色の丸というものも見られました。

将軍船の日の丸の旗

日の丸を国全体の象徴として用いるようになったのは、16世紀後半の豊臣秀吉と17世紀初めの徳川家康が、外国との貿易船にこの旗をつけたのが始まりです。17世紀の江戸（現在の東京）の町を描いた屏風では、日の丸の旗が将軍を乗せた船の目印として用いられています。鎖国時代（1639～1854年）は、外国との交易やその他の関係を結ぶことは、中国、朝鮮、オランダ以外は禁じられていましたが、1854年以降、幕府が（アメリカとロシアを含む）外国との貿易を開始する



日の丸
縦横比は2:3、円は正確に中央に位置し、その直径は旗の縦の長さの5分の3



と、日本の商船には再び日の丸の旗が掲げられるようになりました。

1854年に徳川幕府は薩摩藩主・島津斉彬の提案を受け入れ、日本船は外国船との区別

日の丸のデザイン
1998年開催の長野冬季オリンピックに参加した女子ホッケー日本代表選手のユニフォームに、日の丸のシンボルが見られる
© Kodansha

のため「白地の日の丸の旗」を目印とすることが定められました。1860年の遣米使節団が乗った咸臨丸には日の丸が掲げられていました。

現代日本の旗としての日の丸

1868年、徳川幕府は統治権を失い、明治政府が設立されました。1870年1月27日の太政官布告第57号によって、日の丸は公式に日本商船の旗と定められました。

日の丸は政府庁舎の敷地に1872年に初めて掲揚されました。翌年には陰暦に代わって太陽暦が採用されましたが、当時は多くの一般家庭や民間の組織も、祝日には好んで日の丸を掲揚しました。その後、多数の告示や文書が発行され、日の丸の国旗としての地位が固まっていきました。

国歌

「君が代」の歌詞

日本の国歌「君が代」の歌詞は、昔の和歌から採られています。それは次のとおりです。

君が代は
千代に八千代に
細石の
巖となりて
苔の生すまで

政府は、国旗・国歌の法制化を審議する国会において、「君が代」の歌詞の解釈を示しました。1999年6月29日の衆議院本会議において、小淵首相は、「君が代の君は、日本の現憲法の下では、国と国民の統合の象徴であり、その地位が主権の存する日本国民の総意に基づく天皇を指す。君が代は全体として、その地位が主権の存する日本国民の総意に基づく天皇を持つという、わが国の現在を表現したものである。この国歌の歌詞を、わが国の永続する繁栄と平和を願うものとして解釈することは適切である」と説明しました。



軍旗
1575年の長篠の合戦を描いた屏風絵で、この部分には、太陽の印（日の丸）が幟上にあるのが見られる『長篠合戦図屏風』六曲一隻 徳川美術館所蔵 © Tokugawa Art Museum

君が代の歌詞を誰が最初に書いたのかは、知られていません。君が代は、31文字からなる日本の和歌を集めた二つの歌集、すなわち10世紀の『古今和歌集』と11世紀の『和漢朗詠集』の中に見られますが、作者の名前は不詳です。

大変古い時代から、君が代は、吉事の祝いや特別な出来事の祝宴で詠まれてきました。歌詞には曲がつけられることも多く、その音調は、謡曲（能で謡われるもの）や小唄（三味線に合わせて謡われる大衆芸能）、浄瑠璃（三味線に合わせた語り物の節）、祭礼歌、琵琶歌（琵琶に合わせて歌われる）等に典型的に含まれる音調でした。君が代の歌詞はまた、御伽噺やその他の物語の中でも用いられ、江戸時代の大衆小説である浮世草子や狂歌集の中にも現れました。

「君が代」の音楽

1868年に明治時代が幕を開け、日本が近代国家として歩み始めたとき、「国歌」と呼ばれるものはまだ存在していませんでした。

1869年に、イギリスの軍楽隊教官で当時横浜にいたジョン・ウィリアム・フェントンが、日本には国歌がないことを知ると、日本の軍楽隊員にイギリスには「God Save the King (Queen)」という国歌があることを話しました。フェントンは国歌の必要性を強調し、歌詞を与えてくれれば曲をつけようと申し出ました。

軍楽隊員は隊長に相談した後、薩摩（現在の鹿児島県）出身の砲兵隊長で、日本と中国の歴史・文学に通じた大山巖（1842～1916年）に、国歌にふさわしい歌詞の選定を依頼しました（大山は後に陸軍大臣、陸軍元帥となりました）。

フェントンは、大山が「蓬莱山」と題する琵琶歌から選んだ「君が代」の歌詞に自ら曲をつけ、こうして最初の国歌「君が代」が生まれました。しかしその曲は、現在知られているものとは全く異なります。フェントン作曲の「君が代」は、1870年のある軍隊行進で金管楽器を伴奏に演奏されましたが、その後、厳粛さに欠けると考えられ、見直しが必要であるとの意見が固まりました。

1876年に海軍軍楽隊長の中村祐庸は、海軍大臣に「君が代」の曲の変更を提案し、この提案を基に、宮廷で演奏される歌謡の旋律に似た新しい曲を作ることが決定されました。1880年7月に4名からなる委員会が設立され、曲の見直しを始めました。この4名とは、海軍軍楽隊長の中村祐庸、陸軍軍楽隊長の四元義豊、宮内省一等伶人の林広守、そして海軍省が招聘したドイツ人教師、フランツ・エッケルトでした。

最終的に、林広守の作った曲が、雅楽で使われる伝統的な音階に従っていることを理由として選ばれました。エッケルトが四声で歌えるよう編曲をした後、新しい国歌が



皇居一般参賀
毎年1月2日は皇居が一般公開され、皇族がお出ましになる。参賀に訪れた人々が日の丸を振っている
© Yomiuri Shimbun

1880年11月3日の明治天皇の誕生日に宮廷で初めて演奏されました。これが国歌として現在知られる「君が代」の始まりでした。

現代日本の日の丸と「君が代」

今日、日の丸と「君が代」は、国民の祝日やその他の吉日の行事、国賓の歓迎式典において掲揚・演奏されます。

また多くの日本人は、祝日には玄関先に日の丸を掲げます。「君が代」は、日本代表が参加するスポーツの国際試合など、非公式の行事でも演奏されます。日本人の多くが国技と考える相撲の千秋楽でも、授賞式の前には国歌が演奏されます。

政府は、日の丸と「君が代」の利用は慣習法として定着していると考え、21世紀を前に、これらにはっきりと成文法の根拠を与えるのが適当であると判断しました。日の丸・「君が代」は国旗・国歌であると法制化する法案が、1999年6月に国会に提出されました。国旗国歌法は1999年8月9日に施行されました。

詞: 古い和歌(作者不詳)
曲: 林 広守

きみがーよーはちよにーやちよにさざれいしの
いわおとなりてこけのむーすーまーで

「君が代」

国民の祝日

元日
新年を祝う日。

1月1日

海の日
海の恵みに感謝する日。

7月第三月曜日

成人の日
満20歳になった若者を祝福する日。

1月第二月曜日

敬老の日
老人を敬う日。

9月第三月曜日

建国記念の日
日本の神話で最初の天皇である神武天皇の治世の始まりを記念する日。

2月11日

秋分の日
家族・親族が集まり、先祖の墓参をする日。

9月23日ごろ

春分の日
家族・親族が集まり、先祖の墓参をする日。

3月21日ごろ

体育の日
1964年の東京オリンピック開会を記念して1966年に制定された、健康推進の日。

10月第二月曜日

昭和の日
激動の日々を経て、復興を遂げた昭和の時代を顧み、国の将来に思いをいたす日。

4月29日

文化の日
日本国憲法（1946年11月3日公布）に記された平和と自由の思想を、文化活動を通じて育てる日。

11月3日

憲法記念日
1947年の日本国憲法の施行を記念する日。

5月3日

勤労感謝の日
労働に感謝し、豊作を祝う日。

11月23日

みどりの日
自然に親しむとともにその恩恵に感謝し、豊かな心をはぐくむ。

5月4日

天皇誕生日
1933年のこの日、今上天皇が生まれました。

12月23日

こどもの日
子供たちの健康と幸福を願う日。

5月5日



お弁当
日の丸弁当は、白米の中央に梅干を載せたお弁当
© Kodansha